

志小安全・防災だより



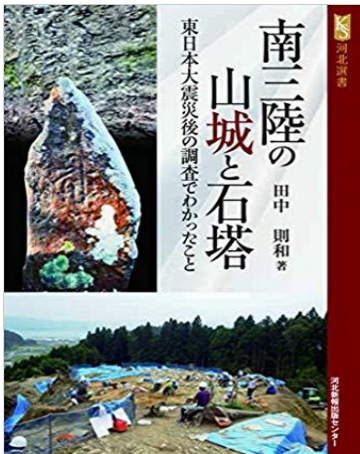
H31.2.25 No.44
安全・防災担当:早坂 潤

「津波高標示」設置の工事が学校近くで間もなく開始します！

学校の体育館前の坂を下ったところに、志津川地区の高台造成工事のために切り倒した樹木を利用して、志津川地区の平均津波高を表した標柱を設置する工事が始まります（この場所の他に4箇所設置予定）。設置の意図は、平均津波高と各地区の歴史を表した標柱を志津川地区内に設置することで、東日本大震災による津波被害の記憶の語り継ぎを行うということです。将来発生しうる津波に向け、災害に強いまちづくりを次世代につなげていくための取組の一つでもあるとのことでした。志津川のまち中で今後この標柱を目にすることがあると思いますので、これからの子どもたちの将来のためにつくられているということをしっかり話していきます。

「南三陸の山城と石塔」という本を見つけました

先日、本屋さんに入ったら、学校の周りの発掘調査を行った田中則和さんが書いた「南三陸の山城と石塔」という本が積まれていたので、購入しました。この本は、以前、地域の方より紹介されていたもので、学校周辺の歴史がこの本を読むとよく分かるとのことでした。志津川には、いくつかの山城



ことは知っていましたが、15世紀につくられた新井田館がまるごと発掘された話や志津川地区に存在した山城の防御力や土木技術力がとても優れていた話など、とても興味がわく内容が載っていました。このように堅固な山城にしなければならなかった理由は、当時、漁業権や川を使った輸送権を巡って、沿岸の領主たちが争っていたからです。志津川の港は海外との交易にも重要な場所だったらしく、志津川のどこを自分の領地にするかでは、財力にも影響を及ぼすことになったのだと思います。また、この時代も津波等が多数発生しており、岩盤が強いところや、高い土地に館が建てられていたのは、災害から自分たちの身を守るためでもあったと言われています。

「こども110番の家」のステッカーが完成しました！

年末に、南三陸警察署の三島さんと一緒に「こども110番の家」設置のお願いにお店を回らせていただきました。これから更にまちが復興し、多くの人や車が入り出すようになると、そのことに伴い、これまで以上に子どもたちの安全に目を向けなければなりま



せん。「こども110番の家」への登録、ありがとうございます。
ございます。

生活安全課の方々が中心となり、このようなすてきなステッカーを考えてくださいました。